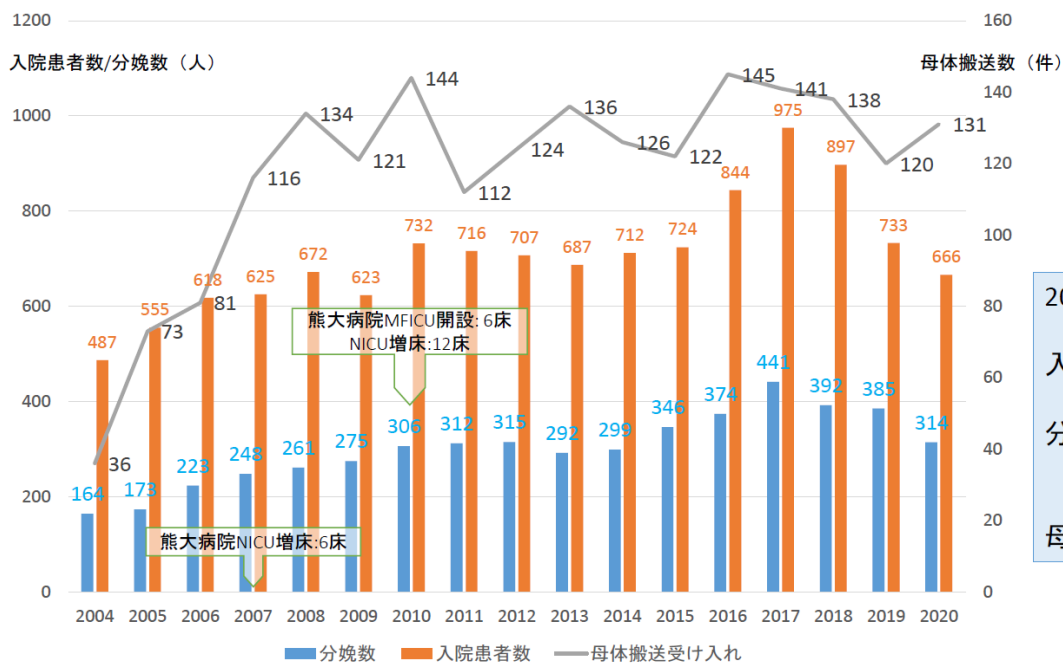


周産期医学

産科病棟の分娩数、入院患者数、および母体搬送受け入れ数の年次推移



2020年
 入院患者総数: 666例
 分娩数: 314例
 (うち帝王切開: 151例)
 母体搬送受入: 131例

婦人科腫瘍診療へのニーズ

| | 具体的なニーズ | 当教室の 寄与 | 当施設の位置づけ |
|---------------------------|--|------------|--|
| 手術療法 腹腔鏡手術 ロボット支援手術 | <ul style="list-style-type: none"> 早期の子宮頸癌ならびに子宮体癌に対する腹腔鏡下手術ならびロボット支援下手術の導入 | △→◎ | <ul style="list-style-type: none"> 当施設では、腹腔鏡を用いた診断・手術を1986年よりいち早く導入した。 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の導入が遅れていたが、2021年6月1日から第10代目教授に近藤英治先生が就任し、腹腔鏡およびロボット手術を多く行っています。 |
| 化学療法 | <ul style="list-style-type: none"> 新規薬剤の有効性に関する多施設共同による臨床試験への参画 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）ならびに婦人科悪性腫瘍研究機構（JGOG）に属し、婦人科悪性腫瘍症例に対する様々な臨床試験に参加している。 熊本婦人科悪性腫瘍研究会（KuGOG）を運営し、熊本県内の各施設と連携した診療体制を構築している。 |
| がんゲノム医療 | <ul style="list-style-type: none"> がん遺伝子パネル検査に基づくプレジジョン・メディスンの推進 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 熊本県内で唯一のがんゲノム医療連携病院として、婦人科悪性腫瘍の症例に対するがん遺伝子パネル検査を行い、中核拠点病院である岡山大学でのエキスパートパネルにて、治療方針を決定している。 |
| 遺伝カウンセリング | <ul style="list-style-type: none"> 遺伝性乳癌卵巣癌やリンチ症候群に対する遺伝カウンセリングの実施 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 当施設では、2013年より出生前遺伝学的検査（NIPT）を行い、遺伝カウンセリング体制を整備してきた背景がある。 現在、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医（2名）を中心として、婦人科悪性腫瘍の症例に対する遺伝カウンセリングを行っている。 |
| 放射線療法 | <ul style="list-style-type: none"> 放射線科との連携による婦人科悪性腫瘍に対する適切な放射線治療の実施 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 熊本県内では2施設（熊本大学病院、熊本医療センター）でのみ、進行子宮頸癌に対する遠隔操作密封小線源治療RALSを施行している。 |
| 子宮頸癌ワクチン | <ul style="list-style-type: none"> 子宮頸癌ワクチンに対する正しい理解の啓発 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 子宮頸癌ワクチンの有効性や安全性について、正確な情報提供と啓発をすすめている。 2008年より中学・高校生を対象としたがん教育を継続して行っている。 |
| 学生教育・卒後教育 | <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習、卒後臨床研修の必修科 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 県内の産婦人科医療機関と連携して、臨床実習、卒後臨床研修の場を提供している。 |

生殖内分泌医学

不妊症外来および生殖医療・がん連携センター受診者の年次推移

